クエスト通信

天童三中総合学習担当発行　令和４年８月３０日

「こんな大人になりたくない」

月曜日の朝。高校への通学の電車の中。どのサラリーマンも金曜日には楽しそうな表情だったのに、疲れた不機嫌な面持ちで通勤している。「ぼくは、こんな大人になりたくない。仕事をするとは、そんなにつらいことなのか。」と、疑問を持った。これは、現在大学４年生で、皆さんと同じクエストの授業を大阪で受けた先輩が高校時代に感じたことだそうだ。

先日、全国各地で、クエストエデュケーションを中学・高校時代に経験したクエスト卒業生と教員の座談会があった。クエスト卒業生が、探求を進める中で大変だったことなどを振り返りながら語ってくれた。

そんな疑問やモヤモヤが吹き飛んだのが、コーポレートアクセス。企業人の話を聞いた時。自分にスイッチが入った。どの企業人も会社の理念を語り、お金儲けだけでなく、社会のため、人に役立ち、社会に貢献していると話す。どの企業人も目を輝かせて楽しそうに話してくれた。その瞬間、自分もこういう大人になりたいと思ったという。

また、プレゼンテーションを作っていく上で次のことに気づく。

相手にわかるように伝えるとは、数学の証明と同じ。論理的に伝える必要がある。歴史を知っていれば、説得力ある内容になる。自分たちのアイデアを生かすには化学の知識が必須だ。勉強をする意味がわかったと、続ける。楽しそうに働く大人。誇らしげにしている大人。自信をもっている大人。こういう会社にしていきたいとビジョンを持ち、やりがいのある仕事をしていきたいと思ったそうだ。

クエストは、進路にどう活かされたのか。卒業してから今の自分に活きていると思うことは何か。それは、とにかく、「何でも一歩踏み出してみること。」「何でもやってみること。」と語る。

高校時代にこんなことがあった。自分たちのアイデアを実現させるために試行錯誤していると、インターネットで、ある論文に出会う。しかし、すべて英語。全く分からず困り果てた。そこでダメもとで学校の先生から、電話を借りて、理化学研究所に電話。「〇〇高校の〇〇〇〇という者ですが、〇〇について教えて下さい。」と。高校生からの突然の電話にもかかわらず、メールアドレスを教えてもらい、そこに自分たちの疑問を送ったら、何と東京大学の教授から丁寧な返信がきた。彼は、「何でもやってみることが大切だ」と、締めくくった。

≪今後の予定≫

１年生　「職業インタビュー」　身近な人の仕事の内容を知り、自分の将来の生き方を考えるヒントにするため、夏休み中の課題にしていた「職業インタビュー」。

学級で発表会(右写真１年１組)を行い、職業についての知識を広げていきます。全員のレポートを廊下掲示するので参考にして下さい。

２学期末には、Panasonic 社員によるオンライン授業を計画中です。

２年生　「コーポレートアクセス」　「アンケート調査」に取り組む,「調査レポート」を書く。

インターン先の企業から出されたアンケート調査を夏休み中に行ってもらいました。あなたの会社やその商品・サービスがどんな評価を受けているか、集めた情報を調査レポートにまとめます。２年１組は、９月１２日（月）５校時総合の授業を公開。オンラインで東京と結び、学校コーディネーター（教育と探求社）の先生が授業参観する予定です。

３年生　「ソーシャルチェンジ」　STEP5，６「困っている人を助ける」「企画を共有する」

どうすれば困っている人を助けて笑顔にできるか考えます。企画を考え、より良い企画にするために、隣のチームと共有していきます。９月２９日（木）16：00 より、ソーシャルチェンジに取り組む東日本の中高生の仲間の交流会があります。興味のあるチームは、担任の先生に相談して下さい。